

グローバルヘルスに関する JICAの取組みについて

令和3年7月9日

第1回グローバルヘルス戦略推進協議会

1. 事業概要（保健医療分野）

- **対象国**：日本政府の方針による（原則的には、DACリスト掲載国）
これまでに約150か国を支援。

- **実施中案件数（2021年4月現在）**：

技術協力 96件、無償資金協力 21件、有償資金協力 26件

（※有償内訳:保健医療9件、新型コロナ危機関連対応17件）

- **予算規模**：

協力実績（2017～19年度平均） ※新型コロナの影響がない直近3年間の平均

○**保健システム強化**：技術協力37億円、無償資金協力92億円、円借款57億円

○**感染症対策**：技術協力12億円、無償資金協力39億円

○**母子保健**：技術協力13億円、無償資金協力32億円

○**非感染性疾患対策**：技術協力2億円、無償資金協力3億円

- **主要なカウンターパート**：

相手国政府機関（保健省、国立病院、国立研究所等）、市民社会団体、民間企業等
国内の協力機関・連携機関

政府機関（厚労省、NCGM、NIID、NIPH、AMED等）、自治体、その他公共団体、
大学、民間病院、民間コンサルタント、市民社会団体、民間企業等

2. 成果事例と今後の予定、課題

(1) 保健システム強化

○ベトナム：中核病院の機能強化（技協＋無償＋円借款）

北部（バックマイ病院）、中部（フエ病院）、南部（チョーライ病院）の拠点病院の機能強化を無償と技協を組合せて支援。これら病院を拠点に、地方の中核病院の人材育成および有償による施設整備を支援。ベトナム全土の医療体制の強化に貢献。

新型コロナウイルスの流行に際しては、中部（ダナン）での流行にバックマイ病院・チョーライ病院が医療チームを派遣（JICAが追加的に供与した人工呼吸器やECMOを活用）、チョーライ病院が南部25省病院に院内感染対策の指導をするなど、対策に貢献。

○セネガル：UHC支援（技協＋円借款）

地域共済型健康保険を基盤とするセネガルのUHC達成に向けた取組を、技協と開発政策借款（重要政策の実施を条件に貸付実行する財政支援型資金協力）を組合せて支援。看護師および助産師が配置される末端医療施設の割合増（41%→92%、2015-18）や、健康保険共済組合加入者増（18万人→134万人、2014-18）等に貢献。

(2) 感染症対策



○感染症研究拠点の機能強化とネットワーク化（技協＋無償、SATREPS）

ベトナムNIHE、ミャンマーNRL、フィリピンRITM、ケニアKEMRI、ガーナNMIMR（野口研）、ザンビアUNZA（UTH Virology Lab、SVM）、ナイジェリアNCDC、コンゴ民INRB、ガボンCERMEL等、各国・地域における研究・人材育成で中核となる感染症研究所の機能強化を、技協と無償を組合せて支援。近年はSATREPS（AMEDと共管）を通じて日本の大学等とのより水平的な研究協力や、留学による将来のリーダーの育成、アフリカCDC等地域の国際機関との連携を推進。

新型コロナウイルスの流行に際しては、ベトナムのNIHEが全国のPCR検査の拡充を指導（4か所→86か所に増）、ガーナのNMIMRが国内の最大8割、ケニアのKEMRIが同5割のPCR検査を担うなど、各国における対策で主導的役割。NMIMR、KEMRIは第三国研修を通じて周辺国の検査人材の育成にも貢献。

○ポリオ根絶（技協＋無償＋円借＋協力隊）

ポリオ根絶に向けた世界的取組を、多様な協力スキームを組合せて支援（技協によるポリオ検査室強化、無償による予防接種一斉投与支援、協力隊によるサーベイランス強化、有償によるゲイツ財団と連携したローン・コンバージョン等。中国、インド、アフリカ大陸等、かつての大流行地における流行遮断に貢献。

○JICA世界保健医療イニシアティブの推進（別資料）

予防の強化・健康危機対応の主流化、警戒体制の強化、治療体制の強化

(3) 母子保健

○母子健康手帳の普及・世界標準化（主として技協）

インドネシア、パレスチナ、ガーナ等、これまで世界35か国を支援。日本発の母子健康手帳の全世界的な普及（現在、年間2000万冊以上が使用されていると推計）に貢献。

母子健康手帳の世界標準化を進めるため、WHOと協力し、母子健康記録の標準ガイドラインを策定（2018年9月）。

○看護・助産人材の育成、人間的なお産・尊厳あるケアの推進（技協+無償）

看護・助産人材の育成を、無償（人材育成校の整備）と技協を組合せて支援。全世界で、年間約2,000人の看護・助産人材の育成に貢献（2017-19年度）。途上国においても産科ケアの質や過剰な医療介入（帝王切開の急増等）への関心が高まる中、日本の助産技術を活かし、女性を中心におき、ケアの質を重視した人間的なお産・尊厳あるケアの世界的な普及に貢献。ニカラグア、ボリビア等では妊産婦死亡率の低下にも貢献。

(4) 非感染性疾患対策

○生活習慣病等の予防、早期診断・治療（技協+無償・円借款）

人口構造や所得水準、生活習慣の変化等を背景に、特に大洋州、中東欧州、中南米等、途上国でも急激に拡大する非感染性疾患に対応するため、健康的な生活習慣の普及や、早期診断・治療に資する医療技術の改善を、技協と資金協力を組合せて支援。専門的な医療人材や医療保障制度など、医療水準が一定程度にある国に対しては、がん検診や治療等に用いる高度な医療設備・機材の整備や関連する人材育成も支援。

フィジーでは技協で根拠に基づき地域に根差したカウンセリングを導入したところ、高血糖患者の6割近くが正常値に改善した事例有り。

○高齢化対策（主として技協）

アジアや中南米諸国では急激な人口高齢化が進展、世界に先駆けて超高齢化社会を迎えた日本の経験から学びたいとの要望が高まっている。「アジア健康構想」の枠組みにも沿いつつ、地域包括ケア、介護保険のような公的な制度や、介護関連ビジネス等民間の取組み等の紹介を進めている。

(5) 今後の方向性と課題

○当面は、新型コロナウイルス感染症による健康被害を軽減し、健康危機からの円滑な復興を目的とする取り組み「JICA世界保健医療イニシアティブ」に注力。命を救うための保健医療分野の協力については、5年間で倍増を目指す。

○中長期的には、誰もが負担可能な費用で必要な質の高い保健医療サービスを楽しむ状態が堅持され、健康危機の回避・危機からの回復が効果的になされる「強靱なUHC」の実現を目指した包括的な支援を推進し、2030年までの健康分野SDGの達成に貢献する。

○健康危機対応を含む感染症対策、医療保障制度の拡充を含むUHC、非感染性疾患や高齢化への対応等、新たな課題に対応するための、事業予算および国内外の協力リソースの拡充が必要。

○量的・質的に拡大する協力を効果的に実施するための、在外機能を含めた実施体制の強化が必要。

○新型コロナウイルス感染症収束後の、内外のモメンタム維持が不確定要因。

<2020年9月の菅総理国連総会スピーチ>

人間の安全保障の理念に立脚し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) の達成に向け、「誰の健康も取り残さない」ことを目指す。

- ✓ 治療薬・ワクチン・診断の開発と、途上国を含めた公平なアクセスの確保
- ✓ 途上国での病院建設に力を入れるとともに、機材の整備、人材育成などを通じ、各国の保健医療システム強化
- ✓ より幅広い分野で健康安全保障のための施策（水・衛生や栄養など）

【JICAの取組み】



- ✓ 「人間の安全保障2.0」と「UHC」を達成するため、途上国の保健医療システム強化に取り組む。
- ✓ 中核病院や感染症研究拠点との長年の協力を活かし、日本の経験に基づくソフト支援を組合せて協力する。
- ✓ 「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」地域を中心に、日本を含む世界経済の早期回復にも貢献する。

□治療体制の強化

- ・安心して治療を受けられる中核病院の建設、医療機材の整備、専門医療人材の育成（世界約100か所の病院新增設・拡充を目指す）
- ・遠隔医療を含むDXを活用した病院間のネットワーク化による集中治療体制の強化



□研究・警戒体制の強化

- ・感染症研究拠点のネットワーク化を通じた検査・診断技術の開発能力の強化（世界約10か所の感染症研究拠点の強化を目指す）
- ・検疫・水際対策の強化、早期の感染拡大予防措置



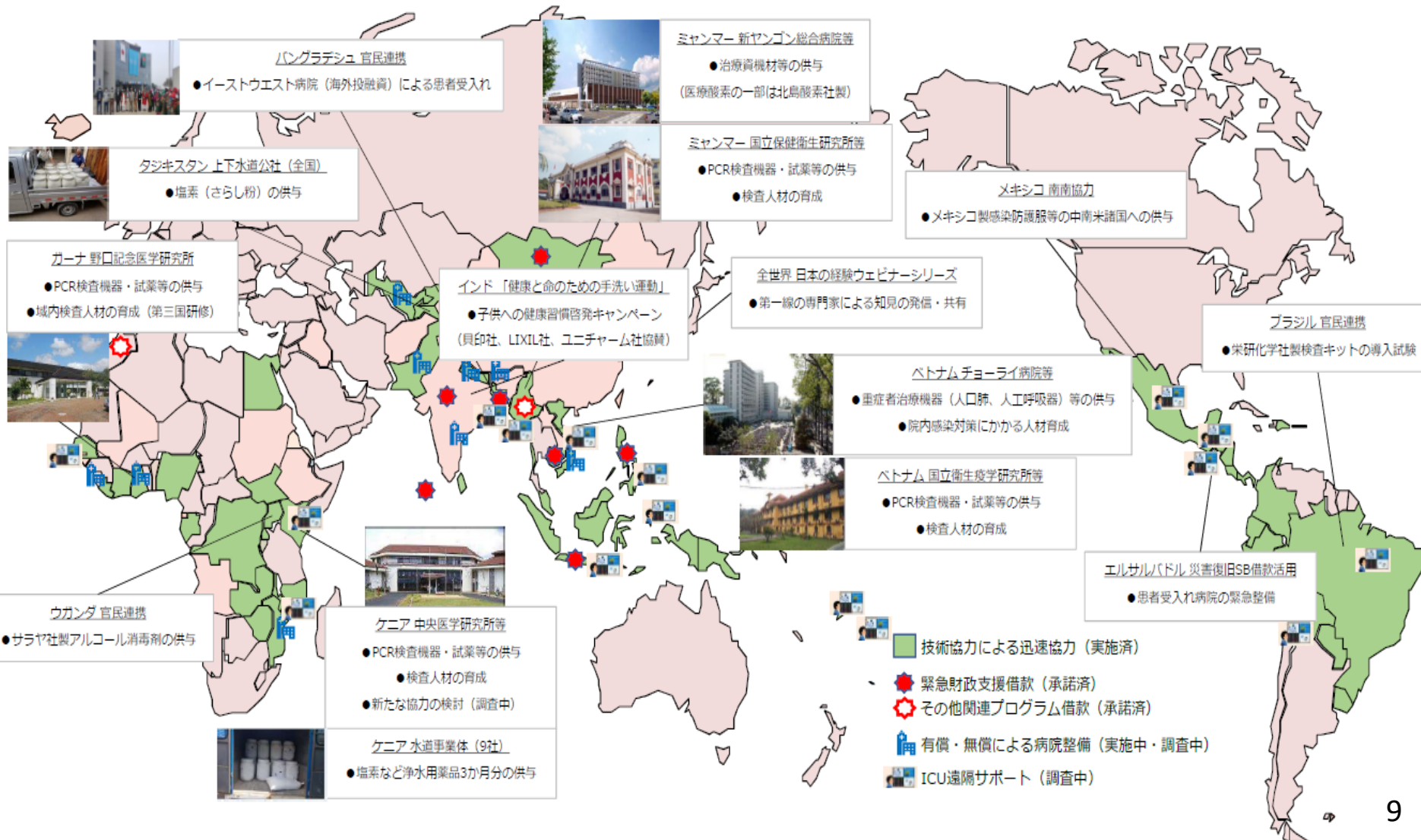
□予防の強化

- ・COVAX等と連動したCOVID-19ワクチンの普及
- ・水・衛生施設へのアクセスや手洗い励行（手洗いプラットフォーム）などの予防の強化
- ・教育、都市計画、栄養等における感染予防・健康危機対応の主流化



JICAによる新型コロナウイルス感染症対策協力 -JICA世界保健医療イニシアティブ-

主な事例



ベトナムにおけるJICAの新型コロナ対策への貢献

- 1970年代以降、**3箇所の中核病院を含め延べ24病院を支援**し、医療体制の基盤整備と専門人材育成に貢献。
- 2003年SARS流行時におけるバックマイ病院の経験や、15年にわたる感染症研究及び検査体制強化支援が、**今次ベトナムの新型コロナ対策の成功に寄与**。
- 2020年2月以降、治療体制の拡充と検査体制の強化から**総額2.9億円の即効性のある支援**を実施。

医療体制の強化

拠点病院から地方の能力強化へ

南部拠点病院のチョーライ病院は、**新型コロナウイルス患者第1号の受入・治療を実施**。ベトナム中部で発生した**第2波**においては、人工肺などの医療機器および医療従事者をチームで派遣し、**重症患者の対応を支援**。南部25省へマニュアル配布・研修を実施し底上げを図っている。

検査体制の強化

中核研究所の強化から検査ネットワークの構築・強化へ

国立衛生疫学研究所 (NIHE) は、**全国の新型コロナ検査ネットワーク構築・拡大の中核的な役割を果たす** (2020年2月以降新型コロナウイルス検査認証機関が4機関→86機関へ増加に貢献)。長崎大学とともに新型コロナウイルス抗体検査キットの共同開発や、検査ガイドライン作成に携わる。

予防体制の強化

国産ワクチンの製造能力強化

ワクチン・生物製剤研究・製造センター (POLYVAC) は、JICAの支援で**国産麻疹ワクチン、麻疹風疹混合ワクチンの製造能力を強化**。2014年の麻疹流行時、高品質で安全性の高い麻疹ワクチンを供給、制圧に貢献。現在POLYVACは確立した麻疹ワクチン製造技術を活かし、**国産COVID-19ワクチンの開発・製造**に取り組んでいる。



ケニア医学研究所（KEMRI）への協力

感染症検査、研究、人材育成の中核拠点

- ・約40年間、5件の技術協力によるソフト面と3件の無償資金協力によるハード面で中核研究拠点としての支援を継続して実施
- ・2009年以降、JICA支援のもとで共同研究協力を2件実施（国際機関や世界の大学等との共同研究多数）

【コロナ下でのKEMRIの貢献】

- ・ケニア国内の新型コロナウイルス感染症のPCR検査数のうち、ピーク時で5割がKEMRIで検査。
- ・アフリカ連合のアフリカ疾病対策センター（Africa CDC）から検査キットの性能試験を委任される。

【JICAの協力】

- ・（新型コロナウイルス感染症対策支援）検査キット、検査用消耗品の資機材供与（約1億5,000万円）
- ・（実施中）感染症対策人材育成のための留学生受入れ
- ・（形成中）KEMRIの研究・研修・人材育成強化の技術協力・無償資金協力

周辺国への波及

- ・近隣の東アフリカ6か国の感染症の検査の能力強化を実施、地域の感染症対策の指導的役割

【JICAの協力】

- ・（実施中）東アフリカ地域向け感染症対策の検査能力強化研修



KEMRI開所式での植樹

日本人専門家とKEMRI関係者協議



ケニア人研究者の育成

日本の研究機関とKEMRIの研究協力



製造部門

東アフリカ諸国対象の研修



ガーナ野口記念医学研究所（野口研）への協力

感染症検査、研究、人材育成の中核拠点

- ・約50年間、8件の技術協力によるソフト面と4件の無償資金協力によるハード面で中核研究拠点としての支援を継続して実施
- ・2010年以降、JICA支援のもとで共同研究協力を2件実施（国際機関や世界の大学等との共同研究多数）

【コロナ下での野口研の貢献】

- ・ガーナ国内の新型コロナウイルス感染症のPCR検査数のうち、ピーク時で8割が野口研で検査。
- ・テレビ放送でガーナ国内の検査状況や検査手法をわかりやすく説明、国民への感染防止に対する啓発活動にも注力

【JICAの協力】

- ・（新型コロナウイルス感染症対策支援）マスク、使い捨て検査用白衣、自動RNA抽出装置、RNA装置検査キット、その他検査用試薬の資機材供与（約2,280万円）
- ・（実施中）感染症サーベイランスと腸管粘膜感染の共同研究協力
- ・（実施中）感染症対策人材育成のための留学生受入れ
- ・（予定）ラボの安全・質管理安全向上の技術協力

周辺国への波及

- ・近隣の西アフリカ11か国の感染症の検査の指導を実施、地域の感染症対策の指導的役割

【JICAの協力】

- ・（実施中）西アフリカ地域向け感染症対策の検査能力強化研修



野口研設立記念式典

日本人専門家と野口研関係者協議



ガーナ人研究者の育成

日本の研究機関と野口研の研究協力



先端感染症研究センター

西アフリカ諸国対象の研修



JICA健康と命のための手洗い運動



— 手洗いを通じた感染症予防・健康危機への備えの主流化 —

- 海外協力隊、専門家、職員を含む全てのJICA関係者が、国内外で手洗いの普及に取り組む運動。
- 手洗い設備の普及、啓発活動等により、コロナをはじめとする感染症の予防と健康の増進に貢献。

海外協力隊の啓発ツールを活用



ごはんの前には手を洗おう

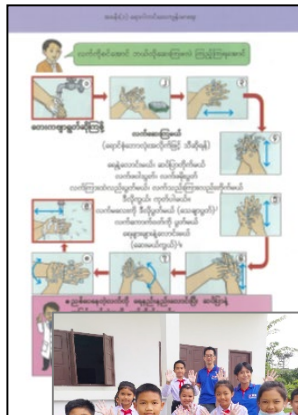


マダガスカル



海外協力隊作成の**手洗いソング**を地元の人気歌手がミュージックビデオ化。**水・衛生大臣**（元JICAナショナルスタッフ）が先頭に立って普及に尽力。

日本式の教育やマンガを活用



ミャンマー



手洗いの必要性や正しい方法を**全国130万人**の小学1年生が使用する教科書に掲載。



ラオスでも手洗い教室を実施。

日本企業とのパートナーシップ



インドネシア



花王の協力を得てハンドソープ等を含む**衛生キット3,000セット**を学校、病院等に配布し、啓発活動も協働で実施。



エチオピア



海外協力隊作成の**啓発ポスター**を首都アジスアベバの全ての幼稚園・小学校に通う**2万人以上**の子どもたちに配布。



26か国語で普及

マンガ家井上きみどり氏作画による**正しい手洗いマンガ**のポスターを現地語に翻訳して普及。アニメ化して**テレビCM**としても活用。



インド



貝印、**LIXIL**、**ユニ・チャーム**の協賛を得て、**爪切り**、**簡易手洗い装置**、**マスク**を配布。子ども向け啓発活動も企業と協働で実施。

ご参考：JICA健康と命のための手洗い運動ウェブサイト
<https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/handwashing/index.html>